

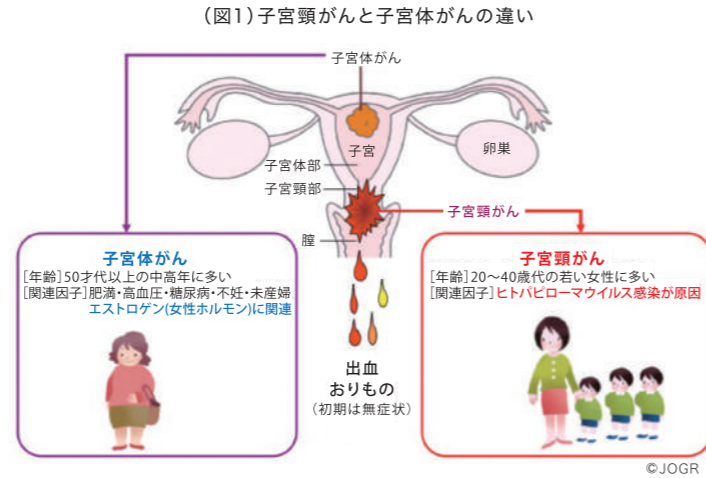
子宮頸がんから自分のからだを守るために

HPV(ヒトパピローウイルス)と予防

子宮頸がんとは

子宮頸がんは、子宮の入り口となる子宮頸部にできるがんです。50歳以上の女性に多い子宮体がんとは異なります。近年では20~40代の学業、仕事、子育てなどに忙しい世代での罹患率が増加しています。

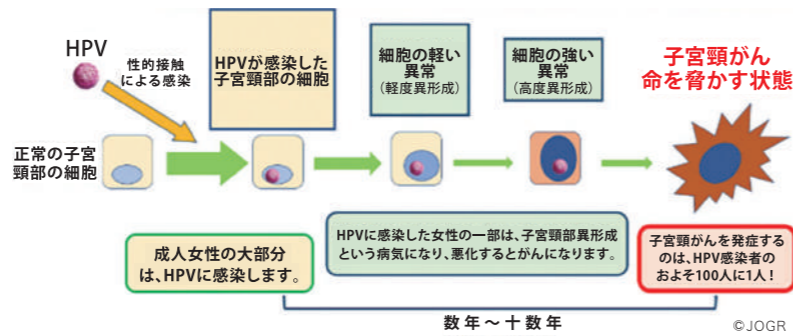
子宮頸がんの95%以上はHPV(ヒトパピローウイルス)により発生するものであることがわかっています。初期はほとんどの場合で無症状です。進行すると性交時の出血やおりもの異常、不正出血、腹部の痛みなどの症状がでます。(図1)



HPV(ヒトパピローウイルス)とは

子宮頸がんは、性交渉によってHPVに感染することで起こります。そのため、性交渉経験のある女性の50~80%は、HPVに感染すると推計されていますが、多くは自然排出されます。感染から数年~数十年をかけてがん化します。HPVは男性にも同様に感染し、肛門がん、陰茎がん、中咽頭がんなどの悪性腫瘍のほか、尖圭コンジローマも発症します。(図2)

(図2) 発がん性HPV(ヒトパピローウイルス)の感染と子宮頸がんの関係



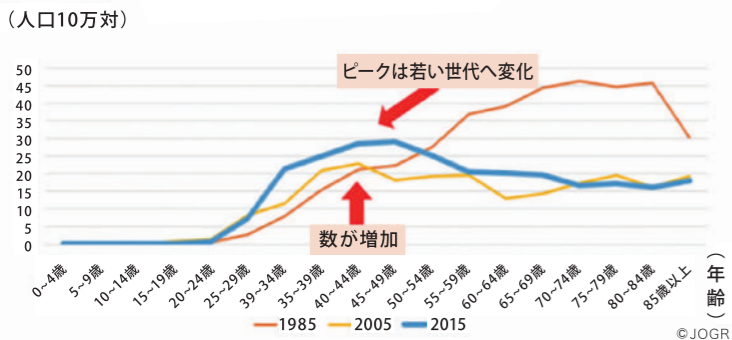
日本の状況

日本では、年間で約10,000人の方が子宮頸がん罹患し、約2,800人の方が亡くなっており、特に20~40代の若い世代の罹患が著しく増加し続けています。(図3・4)

(図3) 子宮頸がん死亡者数

- 多くの先進国では子宮頸がんは検診の普及で減少しています。
- 色々な国で検診とワクチンで病気を排除する予測が立てられてきています。
- 一方日本では子宮頸がんになる人も亡くなる人も増えています。

(国立がん研究センターHPデータhttps://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/index.htmlより作図)



(図4) 子宮頸がんの年齢階級別罹患率(上皮内がんを含まない)

- 子宮頸がんは若い人がかかる病気に変化しています。
- どんどん数も増えています。
- 子宮頸がんになると治療が必要となり、妊娠に影響します。

(国立がん研究センターHPデータhttps://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/index.htmlより作図)

子宮頸がんの治療方法

子宮頸がんが初期の場合には、子宮頸部円錐切除手術によってがんを取り除くことができます。その後の妊娠・出産も可能ですが、早産リスクが高まるなど影響が出る場合もあります。公益社団法人日本産婦人科学会によれば、年間約14,000人の方が手術を受け、そのうち約1,300人が手術後に妊娠しています。

しかし、がんが進行した場合には、根治手術(子宮や卵巣の摘出等)、放射線治療、抗がん剤による化学療法が必要となり、妊娠が難しくなる、排尿障害が起こる、下肢のリンパ浮腫が起こる、などさまざまな後遺症が起こることがあります。

HPVワクチンとは

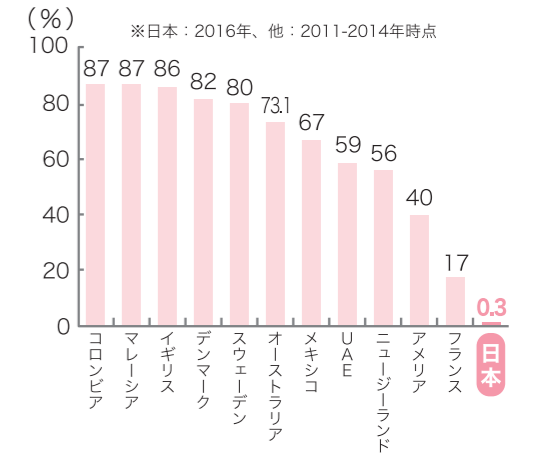
【9価ワクチン】

HPVが原因となる子宮頸がんには、「HPVワクチン」と呼ばれる子宮頸がん予防ワクチンがあります。HPVにはいくつかの型があり、ワクチンによって予防できる種類が異なります。国内ではこれまで2価と4価のワクチンが承認されていましたが、2020年には9種類のがんを引き起こしやすいHPVウイルスを予防する9価ワクチンが承認されました。この9価ワクチンはWHO(世界保健機関)によりその安全性と有効性が認められており、海外ではすでに接種が始まっています。

【HPVワクチンの接種】

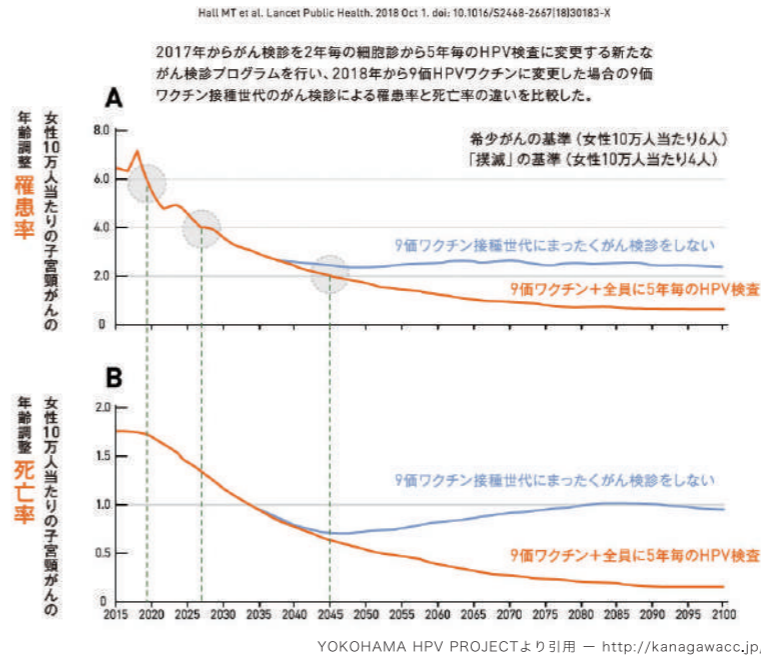
HPVワクチンは感染を予防するものであり、性交渉を経験する前に接種することで効果を得ることができます。そのため、小学校6年生から高校1年生に相当する年齢の女性に対し、積極的な接種の推奨が行われていました。現在では一時差し控えとなっていますが、公費助成による接種が可能です。接種を行う前に、お住まいの自治体に問合せを確認しましょう。

各国のワクチン接種プログラム 対象女子の接種率



Garland SM et al. Clin Infect Dis. 2016; 63(4): 519-527. より作成
厚生労働省 定期的予防接種実施者数 Accessed Feb. 1, 2019. より作成

オーストラリアでは子宮頸がん罹患が2020年ごろには希少がんの数と同等になりその後も撲滅に向かう



オーストラリアの事例から

オーストラリアでは、2007年からワクチンの接種が始まりました。当初は12~13歳の女性に対して接種が開始されましたが、キャッチアップ接種を26歳にまで広げました。さらに2013年からは男女が対象となり、2016年時点でのワクチン接種率は女性78.6%、男性72.9%となっています。その結果、オーストラリアでは子宮頸がんが2020年には希少がん基準を達し、2028年には撲滅の基準を達成すると推計されています。

子宮頸がん検診

子宮頸がんは予防可能ながんの一つです。予防には二つの方法があります。ひとつは、適切な時期にHPVワクチンを接種する方法。もう一つは、子宮頸がん検診を定期的に受診する方法です。検診は問診と細胞診(子宮頸部の細胞をブラシで採取する方法)です。検査自体は5分程度で終了します。性交渉を経験した20歳以上の女性は2年に一度必ず子宮頸がん検診を受けましょう。20歳を過ぎると公費で受診することができますので、お住まいの自治体に問合せみましょう。

佐藤病院 情報配信中

不妊治療・高度生殖医療・妊娠中の女性の生活習慣改善支援

高崎アートクリニック

産科婦人科 佐藤病院

江戸時代より続く女性専門病院

子宮頸がん予防啓発・女性のQOL向上・健康増進支援・高崎美スタイルマラソン

NPO法人 ラサーナ

プレコンセプションケア・働く女性の健康支援

フィーカレディースクリニック

子育てしやすい環境づくり 母親と地域住民の 自助、共助支援

一般社団法人 コトハバ

ホームページ

<http://www.sato-hospital.gr.jp/>

Instagram

https://www.instagram.com/sato_hospital/

Facebook

<https://www.facebook.com/satohospital/>

オウンドメディア・LUNETTA

<http://lunetta.life/>